

那覇空港周辺測定結果

1 概要

那覇空港周辺における各測定局の配置状況を図N 1に、測定結果の概要を表N 1に示す。

各測定局における環境基準の類型指定状況は、4局中、類型 が3局、類型 が1局となっている。

なお、平成15年度末に、喜屋武局を廃止し、新たに糸満局を新設した。

2 測定結果

(1) WECPNLについて

測定期間内におけるWECPNLを表N 1及び図N 2に示す。

WECPNLは糸満局で前年度を上回り、その他の測定局では下回った。

環境基準値を超過した測定局は、前年度と同様、与根局(73.5)と具志局(70.6)であり、両測定局とも類型 である。

(2) 1日あたりの騒音発生回数について

1日あたりの騒音発生回数を表N 1及び図N 3に示す。

那覇浄化センター局では前年度より大幅に増加し、その他の測定局ではわずかに増加した。

依然として、具志局と与根局で特に高い値を示している。

(3) 月別のWECPNLと1日あたりの騒音発生回数について

月別のWECPNLと1日あたりの騒音発生回数を図N 4に示す。

具志局と与根局においては、ほぼ毎月、環境基準値を超過し、騒音発生回数は、与根局で1月に最高値の189.3回/日を記録した。

(4) 月別の平均ピークレベルと最大ピークレベルについて

月別の平均ピークレベル(dB)と最大ピークレベル(dB)の状況を図N 5に示す。

平均ピークレベルは、糸満局を除く3測定局において、70dBから80dBの間で推移していた。

最大ピークレベルは、具志局及び与根局では全ての月で90dB以上を記録しており、最大値は具志局の12月に、101.4dBを記録した。

(5) 曜日別の騒音発生回数について

曜日別の平均騒音発生回数を表N 2 及び図N 6 に示す。

土曜日と日曜日の発生回数は、比較的少ない傾向を示すが、嘉手納・普天間飛行場ほどの大きな差異は見られなかった。

(6) 時間帯別の月平均騒音発生回数について

0時から7時(N1)、7時から19時(N2)、19時から22時(N3)、22時から24時(N4)の各時間帯における月平均騒音発生回数(回/月)を表N 3 に示す。

騒音の発生は、7時～19時の時間帯に全体の約80%を占めているが、深夜22時～早朝7時の時間帯においても観測された。

(7) 環境基準値の超過日数について

測定日数と環境基準値を超過した日数を表N 4 及び図N 7 に示す。

環境基準値超過率は、与根局(60.0%)と具志局(36.7%)で高く、与根局では365日中219日で環境基準値を超過した。

(8) WECPNLと1日あたりの騒音発生回数の年度推移について

WECPNLと1日あたりの騒音発生回数(回/日)の推移を図N 8 に示す。

WECPNLは、ほぼ横ばいで推移しており、具志局と与根局は毎年環境基準を超過している。騒音発生回数は、那覇浄化センター局では、平成14年度に増加し、平成16年度から減少傾向にあったが、今年度は再び増加した。具志局では、平成15年度以降、減少傾向にあったが、前年度と今年度はほぼ横ばいで推移した。与根局においては、高い値のままほぼ横ばいで推移している。

3 まとめ

(1) 環境基準値を超過した測定局の割合は50%(4局中2局)であり、前年度と同じ測定局であった。

(2) 1日あたりの騒音発生回数は、那覇浄化センター局で大幅に増加し、その他の測定局ではわずかに増加した。

(3) 那覇空港周辺における平成18年度航空機騒音測定結果は、WECPNLの値はわずかな増減があるもののほぼ前年度並であり、与根局と具志局においては、依然として環境基準値を超過していることから、那覇空港から発生する航空機騒音は周辺地域住民の生活環境に対し影響を与えている。